



長崎原爆被災者協議会 第6回理事会

3月31日(火)13:30～地下講堂 理事11名参加

年度末最終日のこの日、理事会が行われ、2025年度の活動総括と決算、次年度の活動方針と予算案について論議を行いました。来年度は長崎被災協の結成70周年、結成70年のつどいなどの取り組みについての討議が行われ、2026年度事務局体制や危機管理体制等についても話し合われました。次回理事会は5月15日(金)、評議員会は6月23日(火) 予定

スタイン・トネソン名誉研究教授 田中会長と懇談



世界初の平和研究機関、ノルウェーのオスロ国際平和研究所からスタイン・トネソン名誉研究教授とエヴァ夫人が4月2日に創価学会の皆さんとともに長崎被災協を訪問、田中会長と懇談を行いました。意見交流の後、トネソン教授から田中会長の被爆証言を聴きたいとの希望があり、短い時間でしたが田中会長は、自身の被爆体験や家族のこと、平和運動を行うようになった経緯等を話しました。現在の世界情勢は厳しい中、「多くの市民が社会運動に参加しており、危機があるときにはチャンスもある」とトネソン教授は述べ、田中会長も世界に向けて活動を行っていきたいと応えました。

第51回福田須磨子忌開催

4月2日(木)10時～爆心地公園福田須磨子詩碑前

多くの詩やエッセイで原爆の非人道性を訴えた福田須磨子さんが1974年死去されて52年。爆心地公園にある福田須磨子詩碑の前で、被爆者や市民約40名が集まり、高校生の詩の朗読や歌、須磨子さんと平和への思いを語り、須磨子さんの思いを継ぐことの決意を新たにしました。



田中会長は開会の言葉で「私たち一人ひとり、世界の人々で歴史を作っていくのだ。不屈の精神で生きた福田須磨子さん、伝えてきた平和を守り、核兵器を無くせの声を広めていきたい」と述べました。

ふりそでの少女をつくる会

～京都府・綾部市より来崎～

現在、長崎原爆資料館に展示されている故松添博氏「悲しき別れー茶毘」。晴れ着で茶毘にふされる少女二人が描かれています。

この絵に描かれた少女の一人、福留美奈子さんの母・志なさんが「娘の供養に長崎にお地蔵さんを」との願いに地元綾部の中高生と父母から輪がひろがり、1996年長崎原爆資料館屋上に「未来を生きる子ら」(ふりそでの少女像)が完成しました。



建立30周年の企画として、「ふりそでの少女をつくる会」の皆さんが3月28日と29日に長崎を訪問、28日にはゆかりの地を巡るフィールドワークや活水高生徒の交流、記念式典等、29日(日)9時30分より長崎被災協の田中会長の講話。被爆体験とノーベル平和賞受賞の世界的意義と世界各地の講演活動について田中会長より講話を行いました。その後、学校教育や若い人との運動のつながり、地域での活動など幅広い意見交流を行いました。

田中会長と同じ年の会の代表・余江勝彦さんは、同じ年代が活躍していることで私も勇気をもらったと嬉しいお言葉をいただきました。集合写真前列右から二番目の方がお持ちの写真は107歳で亡くなられた志なさんの写真。会の皆さんといつまでもご一緒ですね。折り鶴と共に笑顔の素敵なお写真でした。

ふりそでの少女像をつくる会
ホームページ →

